第 13 回 Destination Therapy (DT) 研究会

「DT の経験を語ろう、施設拡大に向けて」

会　期：2022 年 10 月22日（土）
会　場：奈良コンベンションセンター（2 階：会議室 206）
当番世話人：戸田宏一
（大阪大学大学院　心臓血管外科学
獨協医科大学埼玉医療センター　心臓血管外科）

事務局
河村　愛（大阪大学大学院　心臓血管外科学）
〒565-0871　大阪府吹田市山田丘 2-2
TEL：06-6879-3154
E-mail: a-shibamoto@surg1.med.osaka-u.ac.jp

ご 挨 拶

DT の経験を語ろう、施設拡大に向けて

第 13 回 Destination Therapy（DT）研究会

当番世話人　戸田宏一
（大阪大学大学院　心臓血管外科学
獨協医科大学埼玉医療センター　心臓血管外科）

今般、**第13回 Destination Therapy（DT）研究会を2022 年10月22日(土)午後、奈良県コンベンションセンターで第 26 回日本心不全学会学術集会（10/21-23）と同時開催**させていただきます。

昨年は8年間の議論を経て、DT 治験7施設で DT-LVAD 植込みが認可されるに至りました。この1年間で症例数は 25 例と多くないものの6か月以内死亡は2例のみで、この新しいシステムが7施設でスムーズに開始されています。今回の研究会のテーマは **“DT の経験を語ろう、施設拡大に向けて”** とさせて頂きました。施設拡大は時期尚早との意見もあるとは思いますが、先ずは本研究会シンポジウムで DT 施設での経験を研究会参加者で共有させて頂き、議論を深めたいと思います。**8 月に皆様のご協力で集計させて頂いた DT の現状等に関するアンケート結果も発表させて頂きます。**次に、アフタヌーンセミナーとして HeartMate 3（MOMENTUM 3）試験の主任研究者であるハーバード大学 Mehra 教授に、米国の DT の現状とその近未来を講演して頂きます。この 8 月の ESC で発表された **MOMENTUM 3 試験の 5 年の長期成績**についても話して頂きます。続いて鳥取大学循環器内科 山本一博教授には ICM-MR, DCM-MR に対する内科治療 /MitraClip/LVAD-DT を用いた治療戦略についてご講演をお願いしました。最後のセッション：症例検討会では、今後 DT 施設拡大を希望される先生方に**症例提示**をして頂き、DT の適応について具体的に discussion 出来ればと考えております。尚、日本心不全学会学術集会参加の方には例年通り本研究会参加証を無料で発行致します。また本研究会参加証は人工心臓管理技術認定士新規申請や更新に必要となる学会・研究会参加証として認められています。

コロナの状況は読めませんが、木々の葉が色づき始める古都奈良で皆様にお会いできることを祈念しております。末筆ながら、皆様の益々のご健勝を祈念申し上げます。

交通案内

● 奈良県コンベンションセンター

奈良交通バス 奈良市庁前 — 下車すぐ

近鉄 新大宮駅 — 徒歩 約10分

JR 奈良駅 — 徒歩 約15分

※奈良県コンベンションセンターまで空港バスの一部乗り入れあり

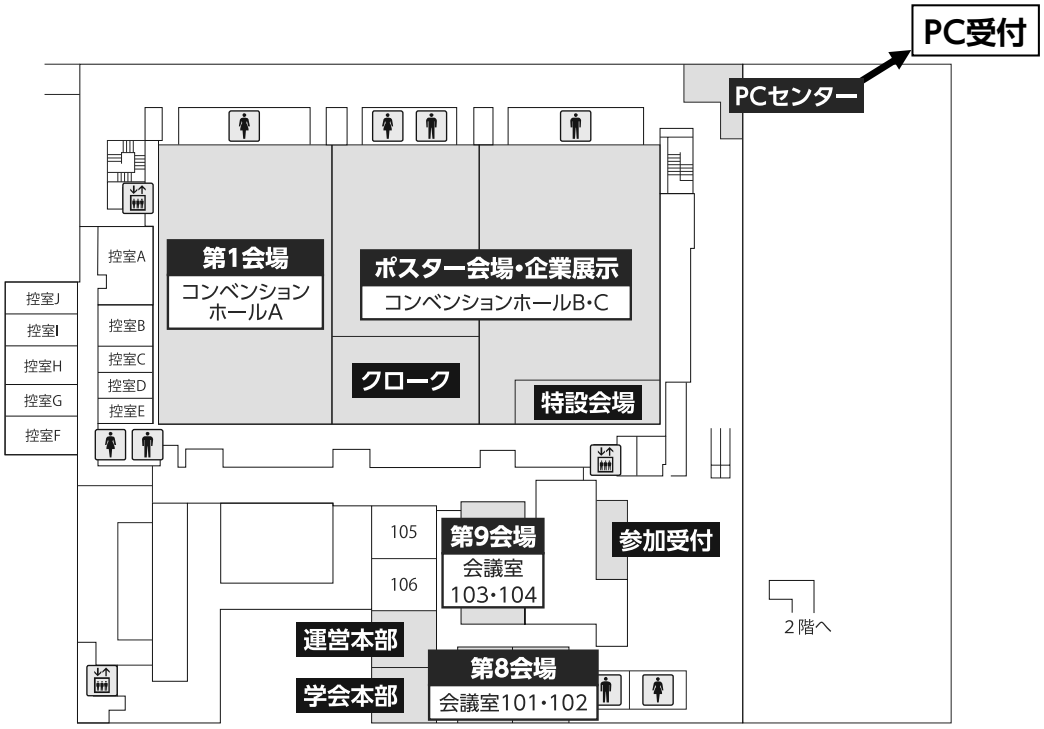
関西国際空港	空港バスで 約90分	近鉄奈良駅	JR奈良駅 ※	
大阪国際空港（伊丹）	空港バスで 約60分	奈良市庁前	下車すぐ	
JR京都駅	JRで 約50分		JR奈良駅	
JR新大阪駅・大阪駅	JRで 約60分		JR奈良駅	
近鉄名古屋駅	近鉄特急で 約2時間30分	近鉄奈良駅		
近鉄京都駅	近鉄で 約45分	近鉄新大宮駅		
	近鉄特急で 約35分	近鉄奈良駅		
近鉄大阪難波駅	近鉄で 約35分	近鉄新大宮駅	近鉄奈良駅	

奈良県コンベンションセンター

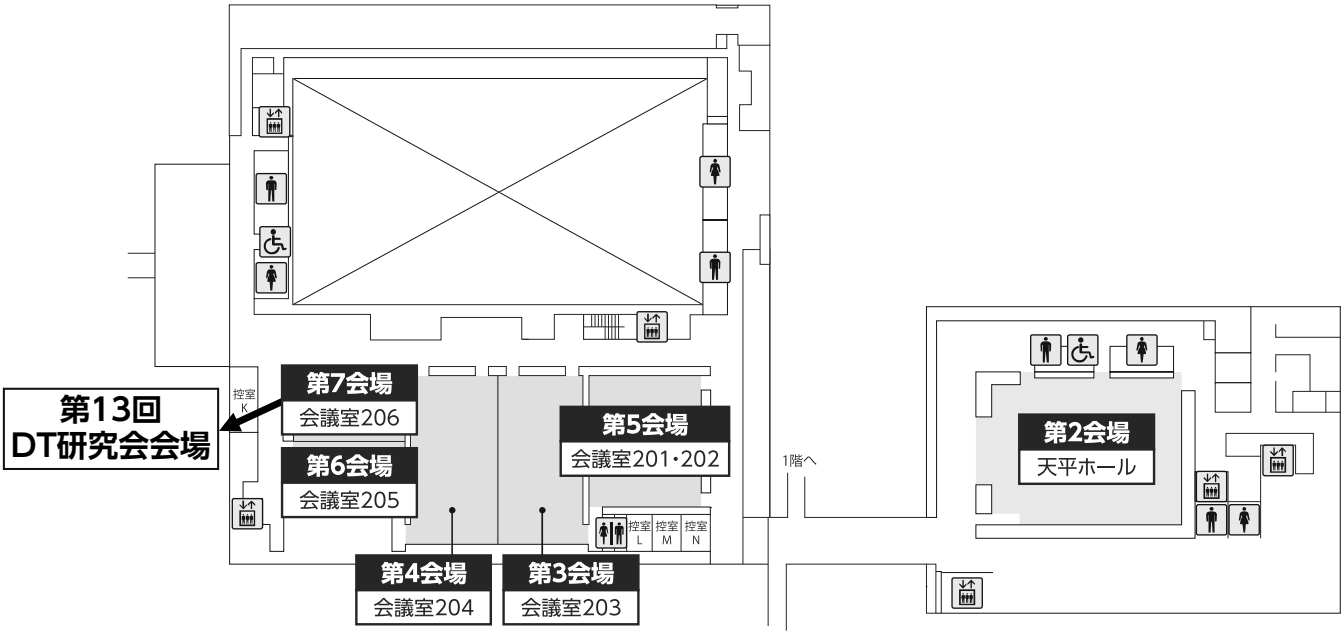
フロア図

奈良県コンベンションセンター

1階



2階



参加者へのご案内

1. ご来場について

参加される方は、以下の内容をご確認の上、ご来場ください。

※以下の事項に該当する場合は、来場をお控えください。

①体調が優れない場合（例：37.0℃以上の発熱・咳・咽頭痛・感冒症状）

②同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合

③過去 3 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

※来場後、上記に当てはまるとお気づきになった際は、スタッフにお声掛けください。

④参加される際、新型コロナワクチン接種証明の写し、または PCR 検査陰性証明をお持ち下さい。ワクチンを2回接種され接種証明をお持ちの方は、PCR 検査陰性証明は不要です。

⑤マスクを必ず着用の上、ご来場ください。

⑥大声での会話等はお控えください。

⑦こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を行ってください。

2. 受付

場　所：奈良コンベンションセンター（2 階 会議室 206 前）

時　間：午後1時00分～午後5時00分

なお、この抄録集は当日必ずご持参ください。

（抄録集は、当日　500 円で販売いたします）

3. 参加費　：※参加費と引き換えに参加証明書・領収書をお渡しします。

1. 医　　師：　3,000 円
2. メディカルスタッフ：　1,000 円

※第 24 回日本心不全学会学術集会に参加登録いただいた方は、第 13 回 Destination Therapy(DT) 研究会は無料でご参加ください。

4. 注意事項

1）発表資料などのビデオ収録、写真撮影はご遠慮ください。

2）携帯電話は電源をお切りいただくか、マナーモードに切り替えてご使用ください 。

座長・演者へのご案内

【座長の方へ】

ご担当セッション開始の10分前までに、会場内の「次座長席」にご着席ください。
係の者がご到着の確認をいたします。

【演者の方へ】

発表の15分前までに、会場内の「次演者席」にご着席ください。

【発表時間】

※時間厳守にてお願いいたします。
※発表終了1分前：青ランプ、終了時：赤ランプが点灯いたします。
①シンポジウム：　12 分（発表 10 分＋質疑 2 分）

【発表者の方へ】

1. 原則として PC ではなく、USB でデータをお持ちください。当日にデータをお預かりいたします。
2. PC 受付は、奈良コンベンションセンター 1 階（PC センター）にて行います。
3. 座長の指示に従い、時間厳守にご協力ください。
4. 倫理的配慮・個人情報保護・患者個人情報に抵触する可能性のある内容は、患者あるいはその代理者からインフォームド・コンセントを得た上で、患者個人情報が特定されないよう充分留意して発表してください。
5. 臨床研究の利益相反状態について、利益相反状態がある場合は、利益相反自己申告書を、第 13 回 Destination Therapy（DT）研究会事務局まで送付してください。
   様式は、第 26 回日本心不全学会学術集会同様（様式1）にてお願いします。

〈発表用 PC について〉

1. ご発表はすべて液晶プロジェクターによる PC 発表となります。データをメディア（CD-R または USB フラッシュメモリー）もしくは PC 本体でご持参ください。
2. 会場用 PC は、OS:Windows 10、アプリケーション :Power Point 2013, 2019 になります。
3. スライドのサイズは、16：9に合わせてから発表データを作成してください。

プログラム

開会挨拶 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14：10 ～ 14：15

戸田宏一

（大阪大学　心臓血管外科学・獨協医科大学埼玉医療センター　心臓血管外科）

シンポジウム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14：15 ～ 15：30

「DT 経験を語る：good and bad」

座　長：松宮護郎（千葉大学 心臓血管外科）

絹川弘一郎（富山大学　第二内科）

SY- 1　DT 治療の今後

尭天孝之（東京大学　心臓外科）

SY-2　非移植施設における Destination Therapy の現状

藤原立樹（東京医科歯科大学　心臓血管外科）

SY-3　DT 治療を見据えた HeartMate の遠隔期成績の検討

田所直樹（国立循環器病研究センター　心臓外科）

SY-4　東北地方の DT の現状

片平晋太郎（東北大学　心臓血管外科）

SY-5　当院における DT 治療の現状

河村　愛（大阪大学　心臓血管外科）

アフタヌーンセミナー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15：30 ～ 16：15

共催：ニプロ株式会社

「米国の現状：65 歳以上への LVAD」

演　者　Mandeep R. Mehra, MD

（Brigham and Women’s Hospital, Heart and Vascular Center）

座　長　戸田宏一

（大阪大学　心臓血管外科学・獨協医科大学埼玉医療センター　心臓血管外科）

特別講演 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16：15 ～ 17：00

「左室駆出率の低下した心不全に伴う機能性僧帽弁逆流に対する治療戦略」

演　者　山本一博（鳥取大学 循環器・内分泌代謝内科学 ）
座　長　坂田泰史（大阪大学　循環器内科学）

症例検討会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17：00 ～ 17：30

「DT 施設拡大を希望する施設から」

座　長　塩瀬　明（九州大学　循環器外科）
　　簗瀬正伸（藤田医科大学　循環器内科）

症例（1）筋野容守[1) 2)]、土屋美代子[3)]、木下修[4)]、中埜信太郎[1)]
1）埼玉医科大学国際医療センター　心臓内科、
2）イムス富士見総合病院、
3）埼玉医科大学国際医療センター　重症心不全・心臓移植センター
4）埼玉医科大学国際医療センター　心臓血管外科

症例（2）小澤敬子[1)]、伊東紀揮[1)]、弓野　大[2)]
1）ゆみのハートクリニック
2）医療法人社団ゆみの

懇親会【ワイン＆スナック】（同研究会会場にて）・・・・・・・・・・ 17：30 ～ 18：15

特別講演

「左室駆出率の低下した心不全に伴う機能性僧帽弁逆流に対する治療戦略」

山本一博
鳥取大学医学部循環器・内分泌代謝内科学分野

ご略歴

1986年3月　大阪大学医学部卒業
1986年7月　大阪大学医学部第一内科研修医
1987年7月　大阪警察病院心臓センター医員
1990年4月　大阪大学大学院医学研究科入学
1994年3月　大阪大学大学院医学研究科修了
1994年7月　Mayo Clinic（Rochester, Minnesota, U.S.A.）
　　The Division of Cardiovascular Diseases and Internal Medicine
1996年6月　大阪大学医学部第一内科　研究生、医員、助手
（講座再編にともない講座名は病態情報内科、循環器内科と改名）
2005年7月　大阪大学臨床医工学融合研究教育センター　特任助教授
　　（大学院医学系研究科循環器内科兼任）
2007年4月　同上　特任教授
2011年7月～2020年3月　鳥取大学医学部病態情報内科学　教授
2015年4月～鳥取大学医学部附属病院　副病院長（兼任）
2020年4月～鳥取大学医学部循環器・内分泌代謝内科学　教授（講座名の名称変更）
2021年4月～鳥取大学医学部医学部長特別補佐（兼任）

所属学会等
日本内科学会、日本循環器学会、日本心臓病学会（代表理事）、日本心不全学会、
日本心エコー図学会（理事長）、日本心血管インターベンション治療学会、
日本心臓リハビリテーション学会、日本不整脈心電学会、日本高血圧学会、
国際心臓研究学会（ISHR）日本支部、日本超音波医学会
American Heart Association, American College of Cardiology,
European Society of Cardiology

特別講演

左室駆出率の低下した心不全に伴う機能性僧帽弁逆流に対する治療戦略

左室駆出率が低下した心不全（HFrEF）患者に重症僧帽弁逆流を認めた場合、β遮断薬、RAS 系阻害薬（ARNI 含む）、ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬、SGLT2 阻害薬という基本的心不全治療薬を投与しなくてはならない。その上で重症僧帽弁逆流を認めて心不全症状を呈している場合、適応基準を満たせば CRT-P/CRT-D の植込みを行う。ここまでは、多くのエビデンスに基づいた“当たり前に行うべき治療”に該当する。

ここから先はエビデンスが確立していない領域となる。僧帽弁逆流を制御すると予後が良くなるとは言えないからである。低侵襲な MitraClip で僧帽弁逆流を低減しても MITRA-FR 試験に登録された患者の予後は改善しなかった。COAPT 試験に登録された患者は同じ治療を行って予後が改善しており、この差異をもたらした理由は明確になっていない。重症僧帽弁逆流を伴う HFrEF 患者の主たる問題は左室機能障害であり僧帽弁逆流は二次的な増悪因子に過ぎない。病態に左室機能障害が大きな寄与をしている場合には僧帽弁逆流への介入の効果はあまり期待できず、DT の方が選択されるべきと思われる。この治療選択に必要な知見の蓄積が待たれる。

アフターヌーンセミナー

「米国の現状：65 歳以上への LVAD」

Mandeep R. Mehra, MD
(Brigham and Women's Hospital,
Heart and Vascular Center)

ご略歴

Mehra 先生は 1967 年インドのご出身で、マハトマ・ガンディー医科大学を卒業後に、ECFMG として米国に移られました。米国ではオハイオ州の Mount Carmel Medical Center in Columbus で内科レジデントをされ、ニューオーリンズ・オクシュナークリニックで循環器内科・心不全内科のフェローをされました。その後、30歳でオクシュナークリニック心不全内科のチーフとなられ、Maryland 大学教授を経て、2014 年より現職のハーバード大学 Brigham and Women's Hospital 内科・重症心不全内科教授として活躍中です。学会関係では、2008 年に ISHLT(国際心肺移植学会) 会長、the *Journal of Heart and Lung Transplantation* の editor-in-chief、2016 年には米国心不全学会会長も務められています。心移植・LVAD を中心とした心不全治療のキャリアの中で特筆すべきは、HeartMate 3 と HeartMate 2 の長期成績の比較を行った MOMENTUM 3 trial を主任研究者として遂行されてきた事かと思います。

日本にも何回か来られていますが（2015年心不全学会、2016年心不全学会、2019年人工臓器学会）、今回は本研究会のテーマであるLVADの長期使用に関連して、①現在米国LVAD患者の26％を占める65歳以上患者、5％を占める75歳以上患者の患者選択やその長期管理、②この8月に欧州心臓病学会（ESC）で先生が発表されたMOMENTUM 3 の5年成績、これらを中心に講演をお願いしております。質疑応答は通訳を入れて完全に日本語で行う予定としております。また先生は非常に気さくな方ですので、本研究会後のワイン懇親会でお声を掛けて頂ければと思います。